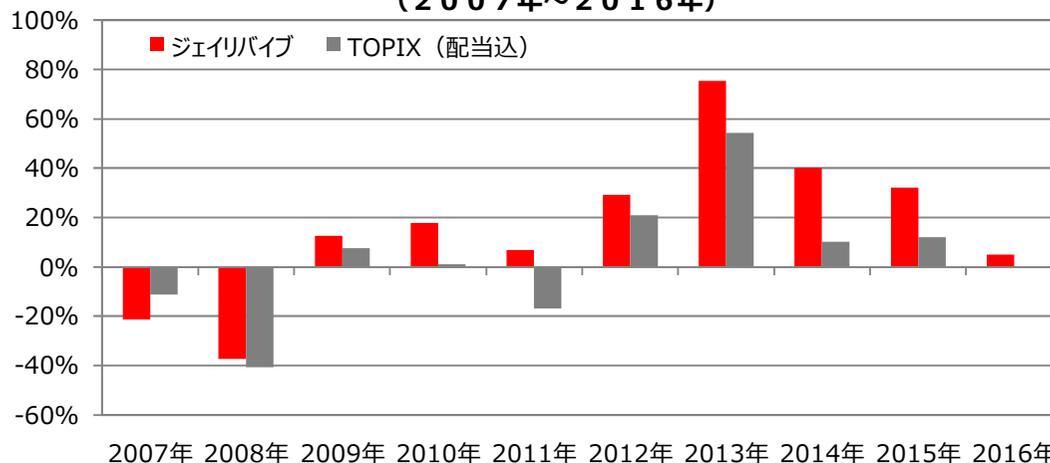


長期のリターンで好成績をあげているジェイリバイブ

相場に負けにくいジェイリバイブの下方硬直性

- ジェイリバイブが長期間のリターンで好成績をあげている要因の1つとして、「相場に比べて負けにくいこと」が要因として挙げられます。国内の代表的な株価指数であるTOPIX(配当込)と過去10年間の年間騰落率を比較した場合、ジェイリバイブはほとんどの期間でTOPIXを上回るパフォーマンスを見せています。
- これは本ファンドの投資助言会社である、エンジェルジャパン・アセットマネジメントが行う企業との徹底した個別直接面談調査により、財務体質に優れ、市場で割安に放置されている銘柄を厳選し続けることで、下げ相場に負けにくい筋肉質なポートフォリオを構築しているためです。

■ 年間騰落率の推移
(2007年～2016年)



【出所】Bloombergのデータに基づき、SBIアセットマネジメントが作成

■ 過去10年間のソルティレシオ
(2007年2月末～2017年2月末)

ソルティレシオ	ジェイリバイブ	TOPIX(配当込)
10年	1.10	0.18
5年	3.66	1.47
3年	2.98	1.02
1年	3.15	2.10

- ※1.ソルティレシオ = (ファンドのリターン - 無リスク資産のリターン) ÷ 下方リスク
 - ※2.ファンドのリターンはファンドのトータルリターン、無リスク資産のリターンは0として計算。いずれも月次のリターンを期間分(10年の場合は120ヵ月)取得し、その差を単純平均してソルティレシオの分子を算出
 - ※3.分母である下方リスクは、「ファンドのリターン - 無リスク資産のリターン」がマイナスだった月のリターンを2乗した値を合計し、全期間数(10年の場合は120ヵ月)で除した値の平方根をとったもの
 - ※4.ソルティレシオの値は年率化
- 【出所】Bloombergのデータに基づき、SBIアセットマネジメントが作成

【ご参考】下方リスクだけを考慮する「ソルティレシオ」

ソルティレシオとは、下落リスクの抑制度合いを判断するための指標として用いられます。

通常、ファンドがリスクを抑えながら高いリターンを獲得しているかを見る際には、「シャープレシオ」と呼ばれる指標が用いられます。しかし、ここでのリスクとは、ファンドが上昇した時も下落した時も同様に「リターンの振れ幅」として計算されます。確かにリターンの振れ幅を抑制し、安定的な値動きをすることは大切ですが、同じリスクと言っても投資家がより重視するのはファンドが上昇した時の振れ幅よりも、下落した時の振れ幅が小さいかどうかだと思います。このように、ファンドが下落した時だけのリスクを考慮して、リスクに見合ったリターンが得られているかを判断するものに「ソルティレシオ」という指標があります。

【出所】モーニングスターHPより一部引用

長期のリターンで好成績をあげているジェイリバイブ

『日本経済新聞』(3月9日夕刊)「追加型株式投信の10年間リターン上位」で SBI 中小型割安成長株ファンド ジェイリバイブ (愛称: jrevive) が1位に選ばれました。

日本経済新聞(夕刊)

2017年(平成29年)3月9日(木曜日)

追加型株式投信の10年リターン上位			
ファンド名(運用会社略称)	リターン(%)		
	1年	5年	10年
1 ※SBI中小型割安成長株ファンド ジェイリバイブ (SBIアセット)	28.3	321.3	232.2
2 ※J-Stock アクティブ・オープン (大和住銀)	55.2	292.8	206.6
3 ※ダイワ日本株・バリュー発掘ファンド(ダイワSMA専用) (大和)	40.4	274.3	193.3
4 タイ投資ファンド (野村)	13.0	33.5	171.2
5 ※ミリオン(ジャパン・ドリーム ポートフォリオ) (野村)	28.9	256.1	170.1
6 ※大和住銀日本小型株ファンド (大和住銀)	53.5	289.8	169.3
7 米国NASDAQオープンAコース (野村)	22.0	76.7	146.8
8 米国NASDAQオープンBコース (野村)	22.4	146.6	140.8
9 ※証券ジャパン日本株オープン (アセマネOne)	20.7	368.5	140.6
10 ※JPMザ・ジャパン (JPモルガン)	33.1	119.0	132.8
東証株価指数(配当込み)	20.9	103.9	6.8

(注) QUICK資産運用研究所調べ。データは2017年2月末時点。対象はETFを除く国内籍の追加型株式投信。リターンは課税前配金再投資ベース。※は国内株式型

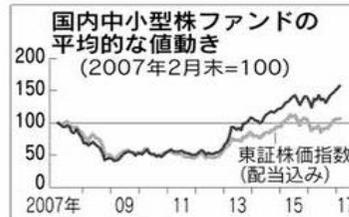
【出所】日本経済新聞2017年3月9日夕刊
マーケット・投資② 5面抜粋

過去10年間の投資収益率の上位を調べてみた。首位はSBIアセットマネジメントの「SBI中小型割安成長株ファンド」ジェイリバイブで投資収益率は23.2%。10年前に100万円を投資し保有し続けた場合、約330万円に増えた計算だ。2位は大和住銀投資顧問の「J-Stock」

投信 番付

金融庁が2016年9月にまとめた金融行政の指針となる「金融レポート」は、個人投資家が資産形成する際の重要なポイントに「長期投資」を挙げている。長期投資を前提とした税制優遇制度の拡充など、国を挙げて長期の資産形成を促している。そこで国内の公募追加型株式投信(ETF除く)全ファンドを対象に、

追加型株式投信の10年間の投資収益率



Stock アクティブ・オープン」で206%だった。上位10本に共通するのは、積極的に利益を追求するアクティブ型投信である点だ。投資対象別では、国内株式で運用するタイプが半数以上を占めた。中でも中小型株式に積極的に投資しているファンドが多い。

アクティブ型好成績

上位の10年間の投資収益率は、東証株価指数(配当込み)の同期間の上昇率(6.8%)を大きく上回る。国内中小型株ファンドの平均的な値動きを見ると、08年の金融危機時に半値を割り、その後も低迷が続いていたが、ここ5年ほどで急上昇している。金融危機が起こる以前より好成績を収めていることが分かる。アクティブ型投信は銘柄の調査や入れ替えにコストがかかり、運用コスト(信託報酬)が高い傾向にある。QUICK資産運用研究所によると国内株式型のインデックス型投信の信託報酬の平均は0.68%、アクティブ型は1.55%だった。上位国内株式型ファンドの信託報酬はいずれもアクティブ型の平均値を上回るものの、過去10年間でコストに見合った成績を上げていると言えそうだ。ただし、すべてのアクティブ型がそうとは限らず、購入時期や保有期間により運用成績が異なるため留意が必要だ。(QUICK資産運用研究所 望月瑞希)

①本件記事は、受領した者のみで利用するものとし、第三者に提供等することは禁止されています。 ②本件記事の改変、複製等を行うことは禁止されています。
③本件記事に関する一切の権利は、本件記事の提供元に帰属します。 ④本件記事に過誤等がある場合でも、原因の如何を問わず、本件記事の提供元は一切責任を負いません。

長期のリターンで好成績をあげているジェイリバイブ

ご参考：中小型株の魅力 -ポートフォリオ分散効果-

- ▶ 下図は、国内株式のクラス別パフォーマンスを年次別にまとめたデータです。
- ▶ こちらをご覧くださいと、各クラスはある程度の周期で好不調を繰り返しており、中小型クラスアセット (■ ■ ■) をポートフォリオに組込むことは、長期の運用において非常に重要であると言えます。

※使用指数は次の通り。

- TPX : TOPIX (配当込) ■ コア : TOPIX CORE 30 (配当込) ■ 2部 : 東証二部指数 (配当込)
- 中型 : TOPIX MID 400 (配当込) ■ 小型 : 日経ジャスダック指数

年 順位	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
1	▲2.9 中型	▲8.3 小型	▲11.4 2部	46.4 2部	42.8 2部	73.2 2部	8.6 コア	▲10.9 中型	▲35.9 中型	9.0 2部	9.1 2部	▲2.2 2部	27.9 コア	55.3 中型	25.2 2部	15.8 中型	12.4 2部
2	▲24.9 TPX	▲10.8 2部	▲12.8 小型	42.8 小型	22.6 小型	54.9 小型	3.0 TPX	▲11.1 TPX	▲36.9 小型	7.7 小型	6.6 小型	▲5.9 小型	20.8 TPX	55.2 コア	15.1 小型	12.0 TPX	3.4 小型
3	▲25.1 2部	▲12.8 中型	▲13.6 中型	33.6 中型	12.8 中型	48.1 中型	▲1.1 中型	▲11.7 コア	▲39.4 2部	7.6 TPX	0.9 TPX	▲10.9 中型	19.9 2部	54.4 TPX	13.0 中型	12.0 小型	0.3 TPX
4	▲36.4 コア	▲18.9 TPX	▲17.5 TPX	25.1 TPX	11.3 TPX	45.2 TPX	▲18.4 2部	▲18.5 小型	▲40.6 TPX	5.7 コア	0.5 中型	▲17.0 TPX	19.7 小型	46.8 2部	10.2 TPX	9.3 2部	▲0.4 中型
5	▲45.2 小型	▲23.7 コア	▲20.8 コア	16.3 コア	6.2 コア	36.2 コア	▲21.0 小型	▲20.1 2部	▲45.0 コア	5.3 中型	▲1.9 コア	▲23.2 コア	16.5 中型	45.2 小型	4.4 コア	9.3 コア	▲2.2 コア

【出所】Bloombergのデータに基づき、SBIアセットマネジメントが作成

長期のリターンで好成績をあげているジェイリバイブ

投資リスク

基準価額の変動要因

本ファンドは、マザーファンドを通じて主に国内株式に投資を行います。株式等価値動きのある証券を投資対象としているため、基準価額は変動します。特に投資する中小型株式等の価格変動は、株式市場全体の平均に比べて大きくなる傾向があり、基準価額にも大きな影響を与える場合があります。したがって、投資者の皆様は投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割込むことがあります。信託財産に生じた利益及び損失は、全て投資者に帰属します。また、投資信託は預貯金と異なります。

本ファンドの主なリスクとしては、価格変動リスク、流動性リスク、信用リスクがあります。詳しくは、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。

お申込みメモ

信託設定日 平成18年7月31日

購入単位 1口以上1口単位（当初元本1口＝1万円）

購入価額 お申込日の基準価額

購入代金 販売会社の定める期日までにお支払いください。

決算・分配 年1回の決算時（原則7月22日）に分配方針に基づき分配します。ただし、分配対象額が少額の場合には、分配を行わないことがあります。

信託期間 無期限

換金価額 解約申込日の基準価額から信託財産留保額を差し引いた額。代金は、原則解約申込日から起算して5営業日目からお支払いします。

課税関係 課税上は株式投資信託として取扱われます。公募株式投資信託は税法上、少額投資非課税制度の適用対象です。配当控除、益金不算入制度^{*}の適用が可能です。^{*}株式投資信託（一部のETFを除く）にかかる益金不算入制度は、法令改正により、2015年4月1日以降に開始する法人の事業年度については適用されません。^{*}税法が改正された場合には、変更となる場合があります。

ファンドの費用

■ 投資者が直接的に負担する費用

購入時手数料 購入申込金額に3.24%（税抜3.0%）を上限として販売会社が定める手数料率を乗じて得た金額となります。

信託財産留保額 換金申込受付日の基準価額に対し0.3%。

■ 投資者が間接的に負担する費用

運用管理費用（信託報酬） ファンドの日々の純資産総額に年1.836%（税抜：年1.7%）を乗じて得た金額とします。

その他の費用 監査費用、有価証券売買時の売買委託手数料等。その他の費用は、ファンドより実費として間接的にご負担いただきます。

及び手数料 監査費用を除いては、運用状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を示すことができません。

^{*}当該費用及び手数料等の合計額については、投資者の皆様がファンドを保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

ファンドの関係法人

<委託会社> SBIアセットマネジメント株式会社（信託財産の運用指図および運用報告書の作成等を行います。）

金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第311号、加入協会／一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会

<受託会社> 三菱UFJ信託銀行株式会社（ファンド財産の保管・管理等を行います。）

・投資信託をご購入の際は、必ず投資信託説明書（交付目論見書）をあらかじめ、もしくは同時にお受取りになり、内容をご確認ください。

・投資信託は価値のあるものであり、元本保証、利回り保証、および一定の運用成果の保証をするものではありません。したがって、運用実績によっては元本割れる可能性があります。

・投資信託の基準価額の下落により損失を被るリスクは、投資信託をご購入のお客様が負うこととなります。

・投資信託は預金ではなく、預金保険の対象ではありません。

・銀行など登録金融機関でご購入いただく投資信託は、投資者保護基金の支払対象ではありません。